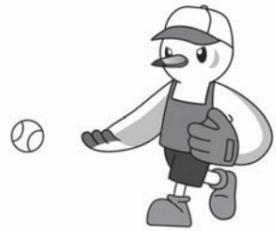


迫る！スポーツ祭東京（国体）

都道府県持ち回りで、毎年実施されている国民体育大会（国体）と全国障害者スポーツ大会が、今年は東京を開催地として、9月28日の味の素スタジアムの開会式からスタートする。東京での開催は54年ぶりとなり、それを「スポーツ祭東京2013」と銘打って行われる。この大会では予選会を勝ち抜いた各都道府県を代表するチームが、熱い戦いを繰り広げる。西多摩地区の各市町村でも9月29日から8種目の競技が始まる。さて、瑞穂町では、ソフトボール競技少年男子（高校生）が9月29日(日)から10月1日(火)までの三日間、シクラメンスポーツ公園と町営第2グラウンドの2会場で行われる。全国のプロックから集まった13チームがトーナメント方式で戦い、最終日には少年男子（高校生）の日本一が決まる。

国内トップクラスのプレーを間近で見ることができ、この機会に、ぜひ多くの方々が観戦という形で国体に参加し、町全体で盛り上げたいものだ。

川口 尊



ゆりーと

眩き

暑さますますきびしく、今年古希をともに迎える私たち夫婦、フーフー言いながら近所の医院の先生をたよりに、がんばっています。また町からの放送（熱中症注意）はありがたいことです。

ところで、6月22日、ユネスコの世界遺産委員会が、日本が推薦した「富士山」を世界文化遺産に登録することを決定するという嬉しいニュースがありました。「三保の松原」も登録が認められました。国内の世界文化遺産としては、2011年の平泉に次いで13件目だそうです。年間、30万人の人々が登るといわれる富士山、国外からの登山者が増えました。さぞかし重く、しんどいことでしょう。かの織田信長でも、甲州攻めの折駒をとめ、みとれたといわれた、日本人の心のよりどころ「富士のお山」。私の富士山は仰ぎ見るものです。心切ない時、うれしい時、ありがたい時、亡き母がいつもそうしていたように自分も頭をたれ、拝みます。

国は遺産を保護し法律や制度で守り、我々は、この美しいお山を愛す心とプライドで、将来に渡り守っていきたいものです。

青木 和子



▲スカイホールから望む富士山

町ホームページ掲載の「まちがどレポート」もご覧ください

情報特派員の皆さんからのレポートは、「広報みずほ」に掲載した記事以外を、町ホームページに掲載しています。ぜひご覧ください。



特派員レポート⑪

ゲームで楽しく学ぶお金と人生設計

小学校の夏休み中に産業課主催の小学校高学年とその保護者を対象とした消費者講座が開催されました。小学生に消費者講座はまだ難しく退屈なのでは、と思われるかもしれませんが、内容はというと、誰でも一度は遊んだことがある「人生ゲーム」のようなすごろく形式のもので、楽しみながら就職、結婚、住宅購入、セカンドライフなどの人生の節目でのイベント、病気・ケガや消費者被害への遭遇などのリスクをゲームのお金を使ってやりくりしながら擬似的に体験できるゲームです。

このゲーム、学校での消費者教育に寄与することを目的として作られた、消費者教育教材資料表彰の2013年最優秀賞を受賞した生命保険会社が立案したもの。お給料が入ったり、宝くじに当たったり、支払いのマスに止まってしまったりする度に歓声があがり、ゲームといえど一喜一憂しながらのあつという間の1時間半でした。

消費者被害にあった場合の対応を学ぶ「アクションカード」クイズを通して、法律、契約、消費者被害対応、環境、衣食住、金融経済、生命保険など、消費者として知っておくべき知識を同時に学ぶことができ、大人の私も大変勉強になりました。

阿部 知美



安協と私

瑞穂町交通安全推進協議会に入って、2年目を迎えた。私はそれまで、安協という役割はおろか名前も知らなかった。去年、西一丁目が夏祭りの大当番だったこともあり、町内会からの要請で就任することになった。安協の仕事は主に町の行事における交通整理で、夏祭り、サマーフェスティバル、体育祭、産業まつり等でその任に当たる。

また、安協に入るまで知らなかったのだが、町内のカーブミラーの清掃、点検も担っている。春、秋の2回の作業をメンバー全員が分担して行う。高い位置にあるミラーを拭くのは中々、骨が折れる仕事だ。しかし、今年はこれ以上に特筆したい体験があった。それは夏祭りの時である。みこしが入ってくるので、道路規制をしていたが、その規制を無視した車に轢かれそうになったのだ。呆然と見送る私を尻目に、その車は猛スピードで去って行った。

また、2件目はもっと大変だった。規制を無視して侵入した車が道を塞いだことに端を発し、何とパールまで持ち出して相手に襲いかかろうとしたのだ。このドライバーは顔面蒼白で殺気だっていたが、何とかその場を収め、事なきを得た。車を見送りながら、ホッと胸をなでおろした。しかし、安協のメンバーは皆、似たり寄ったりの経験をしているらしい。急いでいる時に交通規制を受ける側の気持ちはよく分かる。多くの場合、決して気分は良くないのだ。しかしこの件は、町の行事を円滑に行うための大事な役割である。町民の方々の理解とご支援を頂いて初めて成り立つのである。私などまだまだ未熟だが、先輩たちに学びながら楽しくこの任を全うしたいと思っている。町民の皆さまの一層のご理解をお願いしたいと思う次第である。

小暮 彰

声のひびく祭りのあじ

きたが今年も祭りをみた。腹に響く太鼓の音と、笛の音が鳴ると白丁連がみこしを担ぎだし、山車が動き、太鼓車が続く昔からの伝統の風景である。石畑のみこしは、近郷にはない見事な「立ち姿」である。

巴屋根の大胆な曲線美。天辺に羽ばたく鳳凰、基部を絞った丹精なデザインは容姿を誇る美術工芸の文化財であろう。永世に伝えたい石畑の宝物である。若いころの祭酒は旨かった。みこしにかじりつき汗したたる祭りに無我夢中だった。昔は暗くなるまで担ぎ、豆腐屋前で一息いれ、みこしを揉み上げ団子屋の脇に入り、台坂を登り天辺の須賀大神の祠までみこしを運ぶ。暗くなった山路を提灯に照らされ、太鼓の音に先導される祭りの行列は神秘的な幻想の世界だった。丘陵の坂道を最後の汗を振り絞って重いみこしを担ぎ上げる。太鼓の「ドゥォーン」という余韻に祭りの哀愁が滲み心が震えた。闇の中で深い感動を味わい、祭りが終わる陶醉に全身が痺れた。

贅沢な時代になった。祭りから男臭い汗の匂いと真摯な迫力が消えている。「故郷」の心を強くゆさぶる感動がない。物のない時代は担ぎ手が多く、祭りの一体感が熱く燃えていた。80を過ぎると、共にみこしを揉んだ畏友、老友の顔が「祭りの場」から居なくなつた。若衆のころは、氣勢をおおる担ぎ手がいて、道巾一杯に人がひしめいていた。祭りは郷土愛のシンボルである。来年も重松囃子のリズムを聞けるのだろうか。

匿名希望